



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
 TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

9条をまもり憲法をいかに富山県民の会総会で演奏



演奏する県支部のメンバー



加藤葉子さん

2月11日、自治労富山会館で演奏しました。演奏曲は①決意②どんなに時が流れても③やさしく怒り込め歌おう④命の歌を④私は忘れない、の4曲を歌いました。
 (映像は、日音協のHPで見ることが出来ます。)

富山県支部第48回総会開催

日音協富山県支部第48回定期総会を2月14日(月)午後6時30分より富山市・自治労とやま会館において、代議員(出席7+委任5/14)、役員(7/11)の14人の出席で開催しました。

総会は加藤葉子事務局次長の進行により、冒頭に吉澤会長が挨拶しました。

当日は、来賓としてご出席いただいた長祐二連合富山事務局長と三善康教富山県平和運動センター議長代理から連帯と激励のご挨拶をいただきました。

また、日音協中央と社民党富山県連合会からのメッセージを読み上げて紹介しました。

議事は、2021年度活動経過報告・総括や会計決算報告・監査報告、2022年度方針(案)・予算(案)を一括提案し、質疑討論しました。

48年間活動している「アコーディオン研究会」からは「一昨年3月以降コロナ禍で活動中止が多くなったが、昨年の10月に保育所の子どもたちとの触れ合いができた。今コンサートの開催に向けて月1回の練習を実施している。コロナ感染拡大で施設訪問演奏もできなくなっているが、「とも&しげ」としてZOOMでのオンラインライブ配信の取り組みにかかわっている」、また50年間活動している「ししの子」からは「50周年記念誌を作成中」など7人の方から活動にかかわった想いなどの発言がありました。

その後、新年度役員体制も含め議事のすべてが承認され、3年間就任いただいた吉澤正博前会長から音楽運動にかかわる想いと励ましの退任挨拶と新任の鴨野会長と篠島副会長からの就任挨拶で総会を終了しました。

(磯野友一)



県支部総会



鴨野新会長



吉澤前会長



篠島新副会長

■吉澤正博前会長

若い時から集会などで歌ってきたインターナショナルの歌が、天安門事件の時にテレビから聞こえてきたことが記憶に残っている。

3月の春闘総決起集会でも日音協の皆さんに大変協力してもらった。コロナは永遠には続かない。また、演奏で組合員の士気を高めたい。

■鴨野浩一新会長

青年部の頃、山中湖で開催されていた自治労青年女性大交流集会の文化班担当になって2回の事前合宿など松本会長に助けてもらった。労組の大会であたりまえのように歌ってきたが、新型コロナであたりまえでなくなっている。県支部結成50周年に向けてなどの課題に取り組みたい。

■篠島良幸新副会長

青年部時代大先輩の屋敷さんの指導でうたごえ運動に取り組んだことを思い出した。農協労結成60周年になるが、青年の育成が進んでおらず日音協にも影響している。若い人たちに労働組合の闘う姿勢を示していきたい。その時にうたごえが必要だ。

【2022年度役員体制】

会長	鴨野 浩一(新・自治労)
副会長	能澤 英樹(県教組)
〃	篠島 良幸(新・農協労)
事務局長	磯野 友一(自治労)
事務局次長	大門 悟(ししの子)
〃	中田 信男(ししの子)
〃	屋敷 正人(CAM)
〃	平井 義信(CAM)
〃	加藤 葉子(CAM)
会計監査	久保田誠(富山地鉄労組)
〃	相澤 誠(県教組)

たかが歌とれど歌④ 窪田 聡

「日音協りしては」って？ — 日音協事務局としての かかわりの中から —

「あいさつは短く文章も短く」とマルクスはいった、ことではない。しかし「短く」は大切。現象から距離をおき客観的にとらえた結果だから。もっともひとりよがりな意味のわからない場合もある。

この文章が追憶や自慢話に陥らず「短く」なることをこころがけつつ……。

●四つの活動

労働運動をすすめる組織⇨労働組合に労働運動部はない。あたりまえだ。組織の機構は運動をすすめるためにどのような活動が必要かを示すものから。

しかし音楽運動をすすめる組織⇨日音協にはかつて音楽運動部があった。機構上は「私たちは音楽運動をすすめるために音楽運動をします」といつているようなもので具体的にどんな活動をするかが示されていないことになる。奇妙だ。

* 音楽運動をすすめるために

は「ひとつの視点」にもとづいた「ついで」・「うたい」・「ひろめ」・「つなぎあう」四つの活動が必要。ならばと音楽運動部は創造部・演奏部・普及部・組織部となり、「ひとつの視点」はやがて「日音協基調」となった。

一九七〇年、ほくが日音協事務局に入ってのはじめて取り組んだ仕事だった。

●新しい歌の会

創造部としては『新しい歌の会』が中心だった。はじめは一九七一年。「北から南から」のゲストコーナーには藤川ツトム・今村一男・おもちゃの力丸(香川)・まとはよしお・五右衛門とその一味(大分)などが参加した。出品作を収録した『とばせ歌を！』も発行された。

『新しい歌の会』はやがて音楽祭の「環」としてもたれるようになった。

* 『みんなの歌』

『みんなの歌』春闘勝利・日音協SONG募集なんてのもあった。『日音協音楽賞』の場合は地方支部・単産音協から推薦を受け審査委員会の案を返し投票してもらいと手順がたいへんだった。



「窪田聡の唄参拾」より

* 一九七六年、『新しい歌の会』全国縦断点々コンサート』の略称『点コン』がはじまった。線にはなりえぬという現状認識があった。はじめの年は四カ所。やがていちどきではなかった。やがて北海道・青森・新潟・長野・富山・東京・名古屋・大阪・愛媛・福岡・熊本とひろがった。

各地で自主開催というのはいのいることではありいつのまにか『点コン』は消えた。今では四国四県が集まってひらく『新しい歌の会』に残影があるか。

●自分で音楽する

一九六〇年代、合唱サークルがたくさんあったころの話。作曲者だからと『かあさんの歌』のうたい方を探ねられることがあった。いらついた。『エルベ河』をつたつからといってシヨスタコビッチに電話するか！自分で「音楽する」ことだ。音楽で「主体的」でない人間がほ

かのことでも「主体的」になれるか。

るはずはない。それでむかむかした。だから今の労働運動・政治運動の墮落・停滞があるのだ、とごくささまぎれではなしにいつておこう。

* 『歌集』

『うたのひろば』には表情記号も速度記号もない。自分で「音楽する」ための方策だ。専門家の作品もすべて。林光さんは「面白いね」といつて同意した。『うたのひろば』は一九七六年の発行。

* ピアノ譜

とおなじように右手のほかに左手のベースボタンの奏法を指定した二段組のAコードイオン譜を採用しないことも自分で「音楽する」ための方策のひとつだった。ギター弾きはメロディーにコードがあるだけで弾くじやないか。A「弾きだつてそうあるべきだ！」

* コード

についてO・4・3方式を提唱した。メジャーは長

3度と短3度の重なり。半音をO・五EとすればE・O・E・E・五mの重なり。この方式の発展。
「あたらしい運動はあたらしい方法を生みだす」とマルクスはいった、かな。たとえば林光さんがかかわっている「こんにやく座」の声のだし方。いい！いつまでもベルカントでもあ

●自らを表現する

「みんな」ということの中で「自分」が抜け落ちてしまおう。「合理化反対」や「戦争反対」をいうのはいい。しかし「自分」はなにをするか・なにをしたかが語られるべきなのだ。ほくも「みんな」を使っていた。主語欠落「と思ったとき「みんな」は「俺」になった。

歌にはじめて「俺」という言葉を使った『俺たちの道』は一九六九年。木島三夫としてだつた。自らを表現する「こと」のひとつの方法だった。

* 『はたらくもの音楽祭』

「統一企画」のちの「構成舞台」制作に取り組んだ。集団制作という方法は「俺」と「みんな」をつなぐことでもあった。異なるAとBのぶつかりあいの中から発見があり自己変革の可能性が仄見えた。

＊
日音協の歌はどのように存在しているか？たかだか年一回の音楽祭で歌われるだけに消滅する。これほど日常的に存在しているか？「音楽の存在の仕方」が課題だ。
〈音楽現場を〉の提起はこの点で受け止めるべきだ。ひとびとに歌は届くか届かぬか。歌は歌となるか層となるか。それは状況とのかかわりのなかで24時間丸ごと串刺しにした自らを構築していくことでもある。

●音楽の存在の仕方
歌集『うたのひろば』にはさまざまな歌がある。そのなかに在日韓国人政治犯を支援する家族僑胞の会「クナリオンダ」タイ「生きるための歌」など〈運動〉が生み出した歌がある。
これらの歌を歌としてのみとらえるかぎり〈音楽運動〉はあってもそこにとどまる。歌を存在の仕方としてとらえるとき〈音楽運動〉は〈音楽運動〉につながる。

＊
日音協の講習会カリキュラムにグループ創作活動を組み入れたのもおなじ獲得目標からだった。一九七四年、教育部もあった。

(2面からつづく)

＊
解説抜き。今もぼくの活動を貫いているはずのスローガンを記して終わる。
〈表現主体としての民衆をー〉
〈打ち上げ花火でなくたくさんの線香花火をー〉

＊
「革命的英会話」「3行革命」「ティッシュ革命」ー 広告には健在。アメリカ共和党「保守革命」・韓国大統領「名誉革命」ー どちら側にも健在。マルクスおじさんも苦笑いしていることだろう。

＊
さまざまな〈運動〉から〈革命〉という言葉が消えて久しい。
「流れ流れて……」という演歌の一節が口をついて出てしまうもの。一九八七年でお役御免になった「人間を破壊するものへの怒りをこめてー」を結局は超えていない。

●流れ流れて
「新しい風 道ひろく」「ゆとりを豊かさを心に歌を！」
「いのちのリズム・地球とのハーモニー」「なにわ友あり歌まつり」「歌と生きてきたあなたと生きてきた」「天も地もうたう祭りだ みちのくへー」ーここ数年の『はたらくもの音楽祭』のキャッチフレーズいやスローガンだ。
「流れ流れて……」という演歌の一節が口をついて出てしまうもの。一九八七年でお役御免になった「人間を破壊するものへの怒りをこめてー」を結局は超えていない。

あたりまえの地球 (ロシア語訳)

ナーシャ ゼムリヤー

詩・曲=窪田 聡実

訳=タチアーナブリツィナ・金戸 実

♩=90 C Am F A7 Dm G7

ブラヴァ ユットリィ ブィ ナ モー レエ リエ ター ユット プ テ ツィ パ ニエ ヴー カー
ツ ヴェ トゥー ト ツェ ヴィ ナ ゼム リエ グ リヤ ユット ジェ チ パ ゴー ラ ドウ カー

5 C Am F Dm B7 C G7 C
ク ドール ガー サフ ラ ニ ツァ タ コー イ ナー シェ ゼム リヤ ナー
ク ドール ガー サフ ラ ニ ツァ タ コー イ ナー シェ ジー ズニ ナー

Am Em F Dm G7 C
シェーモー リエ イー ルィ ブィ フ モー レエ ナー
シャーゼムリヤ イー ツヴニトーフ ゼム リエ ナー

Am Em F Dm G7
シェーニューバ イー ブ ティ ツィ フ ニエー ヴェ カー
シーガラーダ イー ジュー チ フ ガラター フ カー

17 C Am F Dm B7 C G7 C
ク ドール ガー サフ ラ ニ ツァ タ コー イ ナー シャ ゼム リヤ カク
ク ドール ガー サフ ラ ニ ツァ タ コー イ ナー シャ ジー ズニ カク

21 C Am F Dm B7 C G7 C
ドゥルガモージナ サフ ラ ニ ツィ タ コー イ ナー シェ ゼム リユ
ドゥルガモージナ サフ ラ ニ ツィ タ コー イ ナー シャ ジー ズニ



「富山ロシア協会」は1986年8月に「ロシア親善協会富山県支部」として創立され35年になる。当時から会員として交流の場などで富山県民謡、ロシア民謡などを歌って親善を深めてきた。
協会の「日本海を平和と友好の海に！」というスローガンに合う「あたりまえの地球」(詩・

※とみおんきょう(日本音楽協議会富山県支部)ユース) 2022年新年号より
曲川窪田聡)をロシアの方たちにも歌って伝えたいと思いいロシア語に訳してもらった。
新型コロナ禍で歌う機会はまだまだありませんが紹介します。(磯野友一)

唐の世(ゆー)から大和の世、大和の世からアメリカの世、アメリカ世からまた大和の世、ひるむさ変わゆるくぬ沖縄(うちなー)、佐渡山豊氏の歌詞の一節である。

列強の狭間で琉球王国として独立していた沖縄を1609年に薩摩藩が侵攻した。それ以来、大和から搾取され差別され続けた沖縄。沖縄戦では本土防衛の捨て石にされ、戦後は本土から切り捨てられ、米軍統治時代に多大な人権侵害を受け続けた。沖縄は1972年に日本に復帰したが、平和憲法は適用されず、米軍基地は返還されず、県民が望まないまま、辺野古新基



今年(負けられない)、新基

今年(負けられない)、新基

今年(負けられない)、新基

地建設、オスプレイ基地整備が行われている。

法を無視しても何が何でも新基地を作りたい政府の意を受け、命令のまま県民を暴力的に排除する県外から派遣された機動隊員が非暴力で抗議する県民に「土人」発言を行い、その差別発言を擁護する政治家や、沖縄県民に対するヘイトスピーチは常に見受けられる。沖縄への根深い差別意識と植民地意識は、構造的差別となつている。

アメリカから押し付けられたという平和憲法を改悪しようとする勢力は、その憲法の上にあり、日本の主権を侵害されている日米安保条約を破棄しようとする。国民の人権が侵害されていても、日本政府は黙認し、米軍には何も言えず、アメリカと手下となり一緒に戦争が出来る国を目指している。権力と立ち回りながら、島人(しまんちゅ)たちは、しなやかに、しっかりとに生き抜き、民族の誇りを守りぬいてきた。

今年(負けられない)、新基

林野労組の新聞で紹介されました

長野県支部 宮沢英明

Winning Road - 平和の火リレーのテーマ

宮沢 英明

♩=150

G D C D C

トーチが燃える 僕の町から君の町へ
真夏の風が 流れる汗を 若さに変えてゆく
ヒロシマの傷 ナガサキの涙 明日につなげて
二度と繰り返させない悲劇 この空へ誓う 今
Winding Road ぬかるみばかりの
Winning Road 反核の道
Winding Road 前だけ見つめて
Winning Road 走り続ける

Em D7 C D7 Bm Em C

上りも下りも ペース崩さず走り続けろ
暮らしに追われ ぐすんだハート 洗濯するために
等身大の本当の自分 叩き起こして
夢を追求してゆく 強さ その胸に取り戻せ
Winding Road でこぼこばかりの
Winning Road 希望への道
Winding Road 自分の歩幅で
Winning Road 走り続ける

C D7 % G D

反核 連帯 平和 友情
四つの想いをひとつに束ね

Winding Road いしころばかりの
Winning Road 平和への道
Winding Road スクラム固めて
Winning Road 走り続ける

Em Bm C D Bm D7

ねんたい へいわ ゆうじょう よつご おもいせ ひとご たはね

DS
ワイング

地建設を阻止し、平和憲法を改悪させない、子や孫のため、マシユンちばらなやーさい(一緒に頑張っていきたいよ)。(平良昌史)

※沖縄平和行進は、5月13日。県民大会は15日。日音協の沖縄行動もこれに合流できるよう取り組みを進めています。開催要項詳細は後ほど。多くの参加を。(佐藤)

Winning Road - 平和の火リレーのテーマ

トーチが燃える 僕の町から君の町へ
真夏の風が 流れる汗を 若さに変えてゆく
ヒロシマの傷 ナガサキの涙 明日につなげて
二度と繰り返させない悲劇 この空へ誓う 今
Winding Road ぬかるみばかりの
Winning Road 反核の道
Winding Road 前だけ見つめて
Winning Road 走り続ける

上りも下りも ペース崩さず走り続けろ
暮らしに追われ ぐすんだハート 洗濯するために
等身大の本当の自分 叩き起こして
夢を追求してゆく 強さ その胸に取り戻せ
Winding Road でこぼこばかりの
Winning Road 希望への道
Winding Road 自分の歩幅で
Winning Road 走り続ける

反核 連帯 平和 友情
四つの想いをひとつに束ね

Winding Road いしころばかりの
Winning Road 平和への道
Winding Road スクラム固めて
Winning Road 走り続ける

水道橋 だより

▼2月23日、第4回幹事会。茨城音楽祭、日音協セミナー2022&若い会員の交流会、日音協の沖縄行動、日音協 SONG の選考方法、などについての報告と、具体的な幹事会の役割分担など検討しました。▼コロナ禍により、幹事会は月1回のペースで ZOOM で開催しています。次回は3月27日の予定です。(佐藤)



オンラインで音楽慰問
“夫婦でアコーディオンデユオ”

コロナ禍で高齢者施設への慰問活動ができない中、新たな形で音楽を届けようと活動する夫婦を取材しました。
富山市で活動するアコーディオンデユオ「とも&しげ」です。
この日は演奏会。演奏会場は2人の自宅で、音楽を届ける先は、オンラインでつないだ高齢者施設や個人宅です。
*詳しくは、動画で「ご覧ください」。
(2月14日、富山テレビより)

<https://www.fnn.jp/articles/-/315430> で入ったら、富山とか、新しいカタチ・高齢者などで探してください。



とも&しげがTVに出演

ウクライナ侵攻に抗議声明

フォーラム平和・人権・環境および原水爆禁止日本国民会議は2月25日、「ロシアのウクライナ侵攻に抗議する」と題する声明を発売しました。

声明は、「国家主権と領土を武力で侵すことは国際秩序を揺るがす蛮行であり断じて許されない」、「(ロシア系住民への)「迫害の事実があれば、まずは国際社会へ問うべきである」、「(核兵器使用をほのめかす)「プーチン大統領の発言は、「核兵器」を弄ぶものであり、断じて許されない」、「チェルノブイリ原発の安全が懸念される」と指摘し、「平和フォーラム・原水禁は、ロシア軍の即時撤退と国際社会への対話の窓口を開くことを強く要求する」と結んでいます。

日音協幹事会は、アメリカまたは多国籍軍のイラク侵攻に対する日本政府の姿勢とのダブルスタンダードを許さず、これを奇貨として敵基地攻撃能力保持をはじめ日本国憲法を空洞化または明文改憲しようとする岸田政権の動きには反対の立場を取りながら、平和フォーラム・原水禁の声明を支持します。

戦争反対！
戦争やめろ！



▼菅直人元首相が橋下徹氏の名前をあげ、「弁舌の巧みさではヒットラーを思い起こす」と発言し、日本維新の会が抗議している。▼ヒトラーは「私は、我が民族の復活がおのずから達成されると約束するつもりはない。我々が行動するのである。自由や幸福や生活が突然空から降ってくると思ってはならない。全ては我々自身の意志と行動にかかっているのである。我が国家、我が民族以外からの助けを頼んではならない！」と民族の復活は、自分たちの行動にかかっていると説く。橋下氏は「社会保障を立て直そうと思えば、国民のみなさんに嫌なことを言うしかない。負担をお願いする。給付水準を下げさせてもらう。国をよくしようと思ったら、政治家なんか任せちゃダメなんです。国民が頑張る番なんです」と。▼両演説の共通点は、「国を再生するために頑張るべきはあなた自身だ。優秀な民族なのだからできる。ともに栄光への道を進もう」となる。この構成で「敵」を仕立て上げれば、その敵が誰であれ、憎悪をかきたてる効果があるだろう。▼維新は、公務員や生活保護受給者を非難しているのだからヒトラーと同質に見える。こういう政党に支持が集まるのは、日本社会が病んでいるからとしか思えない。

どん行

(152)

飯島貞親